

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	人間と科学技術	
科目基礎情報							
科目番号	1523			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合科学科			対象学年	5		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	参考書：アドルノ、ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』。その他、授業中に適宜紹介する。						
担当教員	佐々木 正寿						
到達目標							
【到達目標】 科学技術の展開と現状について歴史的かつ具体的に学ぶことを通して、科学技術と人間・社会との関係のあるべき姿について基本的な理解を得、将来「広く深い知識と温かな心をもった人間・科学技術者」としていかなる状況におかれても主体的に考え行動できるよう、然るべき力量を身に付ける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	科学技術の歴史的展開と現状の概要を、多様な視点から理解できる。			科学技術の歴史的展開と現状の概要を理解できる。		科学技術の歴史的展開と現状の概要を理解できない。	
評価項目2	科学技術と人間・社会との本来的な関わりについて、多様な観点から議論することができる。			科学技術と人間・社会との本来的な関わりについて思索することができる。		科学技術と人間・社会との本来的な関わりについて考えることができない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標【建設工学教育プログラム】(A) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(a) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(b)							
教育方法等							
概要	目覚ましく発展してゆく科学技術の光と影の部分を、主体的に学生諸君とともに考え抜く。「科学・技術とは何か」を問うメタ・サイエンスとしての科学哲学をベースに、倫理学、科学技術史、環境倫理、生命倫理など多角的な視点から、「21世紀の科学技術はどうあるべきか」を考察する。						
授業の進め方・方法	(佐々木担当の場合) 主としてフランクフルト学派の思想(アドルノ、ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』)およびハイデガーの思想(『存在と時間』、『技術への問い』)を参考にして、現代における科学・技術と人間との関わり方について講義し、21世紀を生きる市民として考えるべき事項については、学生自身に主体的に思索することを求めて意見交換を行う。						
注意点	成績評価の方法：(佐々木担当) 定期試験(ca.100%)により評価する。基準：(佐々木担当) 現代社会に特有の科学技術をめぐる問題状況について深く理解しているかどうか、また、そのような問題状況に対しどのように対処すべきかについて主体的に考えようとしているかどうか、こうした点について評価する。 学年成績は、前学期と後学期の成績を平均して算出するものとする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	(佐々木担当) 現代社会の問題状況と倫理的課題についての説明		(佐々木担当) 現代社会において科学・技術の関わる問題状況について知る。		
		2週	(佐々木担当) 現代社会の問題状況と倫理的課題についての説明		(佐々木担当) 現代社会において科学・技術の関わる問題状況について知る。		
		3週	(佐々木担当) 科学技術倫理とハイデガーの技術論との関わり		(佐々木担当) 現代においてハイデガーの技術論について知ることの意義を理解する。		
		4週	(佐々木担当) 科学技術倫理とハイデガーの技術論との関わり		(佐々木担当) 現代においてハイデガーの技術論について知ることの意義を理解する。		
		5週	(佐々木担当) ハイデガー哲学の概要		(佐々木担当) 基礎的事項としてハイデガー哲学の概要を知る。		
		6週	(佐々木担当) ハイデガー哲学の概要		(佐々木担当) 基礎的事項としてハイデガー哲学の概要を知る。		
		7週	(佐々木担当) ハイデガー哲学の概要		(佐々木担当) 基礎的事項としてハイデガー哲学の概要を知る。		
		8週	(佐々木担当) ハイデガーの技術論		(佐々木担当) ハイデガーの技術論の概要を理解する。		
	2ndQ	9週	(佐々木担当) ハイデガーの技術論		(佐々木担当) ハイデガーの技術論の概要を理解する。		
		10週	(佐々木担当) ハイデガーの技術論		(佐々木担当) ハイデガーの技術論の概要を理解する。		
		11週	(佐々木担当) ハイデガーの技術論		(佐々木担当) ハイデガーの技術論の概要を理解する。		
		12週	(佐々木担当) ハイデガーの技術論と今後の社会的課題／意見交換		(佐々木担当) ハイデガーの技術論の思索をもとに、現代社会の課題に対して主体的に考察を深める。		
		13週	(佐々木担当) ハイデガーの技術論と今後の社会的課題／意見交換		(佐々木担当) ハイデガーの技術論の思索をもとに、現代社会の課題に対して主体的に考察を深める。		
		14週	(前学期末試験)				
		15週	(答案返却)				
		16週					
後期	3rdQ	1週	(佐々木担当) フランクフルト学派の立場とその思想		(佐々木担当) 基礎的事項としてフランクフルト学派の概要を知る。		
		2週	(佐々木担当) フランクフルト学派の立場とその思想		(佐々木担当) 基礎的事項としてフランクフルト学派の概要を知る。		

		3週	(佐々木担当) アドルノ、ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』について	(佐々木担当) 基礎的事項として『啓蒙の弁証法』の概要を知る。
		4週	(佐々木担当) アドルノ、ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』について	(佐々木担当) 基礎的事項として『啓蒙の弁証法』の概要を知る。
		5週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		6週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		7週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		8週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
	4thQ	9週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		10週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		11週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		12週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読にもとづく高専自己反省	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		13週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読にもとづく高専自己反省	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
		14週	(卒業試験)	
		15週	(答案返却)	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13

評価割合

	その他（注意点参照）	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	80	80
専門的能力	0	0
分野横断的能力	20	20